



DMC世界大会の舞台上でターンテーブルを巧みに操るIZOHさん

そんな熱い越谷愛を持つIZOHさんですが、実は昨年11月、仕事が多忙なため越谷から転出。「苦渋の決断でした。でも引越す直前にフロバスケッポールチーム・越谷アルファーズの試合前のオープニングセレモニーにお招きいただいた、アルファーズファンの前でプレイできたのは本当にうれしかったです。すごく意味深い体験でした。自分はもちろんこれから越谷



DJ IZOHさん

「越谷では大きな場所でプレイしたことがないので、レイクタウンでやるのが、ちょっとした夢ですね」

ときめきインタビュー



DJ IZOH
ディージェイ イソウ

…プロフィール…

本名・工藤康秀。昭和56年、越谷市生まれ。埼玉県立越谷西高校卒。平成17年、世界最大のDJバトルイベント「DMC」の日本大会で優勝し、世界大会では3位入賞。平成24年の同世界大会で優勝し、念願の世界チャンピオンとなる。現在はソロ活動だけでなく、ラッパーTARÔ SOULさんとユニット「SUPER SONICS」として活動するほか、インターネットテレビ「AbemaTV」の番組レギュラー出演するなど、幅広く活躍している。

「ターンテーブル」というレコード再生装置を駆使して、独創的な音の世界を創り出すDJ（ディスクジョッキー）。越谷出身のDJ IZOHさんは、さまざまなDJのスタイルがある中でも特に多彩な技術が必要とされる「ターンテーブルリスト」として平成24年に世界チャンピオンに輝き、その後もオリジナルティあふれる技巧と音で、DJ界をリードする存在です。

★初めて知った 衝撃的なカッコよさ

越谷で生まれ育ち、釣りと空手を愛する少年だったIZOHさんが、DJを志すきっかけは一本のテレビ番組から。

「忘れもしない中学2年のとき、当時ニューヨークで大活躍していた日本人DJ、hondaさんの特集番組を偶然見たんです。そこに映っていたDJバトルでプレイするhondaさんの姿は、自分がこれまで見たことのない圧倒的なカッコよさで、とにかく衝撃的でした。一瞬でhondaさんの

世界すべてに憧れて、自分もこれやりたい！と思ったんです。「IZOHさん。」

そこからあらゆるヒップホップ音楽を聴き、DJの情報を集め始めたIZOHさんは、高校生になるとアルバイトをしてターンテーブルを手に入れ、独学で技を磨いていきます。

「初めてステージでプレイしたのは高校3年のときで、高校生が主催するタイムのクラブイベントでした。練習はいつも自宅で行っていたので、実は大きな音を出したことがなかったんです。ステージに立つて大きな音でプレイ

★挫折を乗り越え 世界チャンピオンへ

IZOHさんは平成17年、24歳のときDJバトルイベント「DMC OF JAPAN DJ CHAMPIONSHIP」(日本大会)で優勝して世界大会に出場を果たし、初出場ながら堂々の3位入賞。

「3位になったことで、世界チャンピオンまでもうちょっとだ！という気持ちが強くあって、翌年、翌年とチャレンジしたんです。しかし、2年続けて日本大会



自身がメインでもバックでも変わりなく、モチベーションの高いステージがモットー

谷に住んでいたIZOHさん。

「DJの仕事で海外や日本全国いろいろな場所に行く。こっちのことは絶景だよね、とか、こんなうまいものがあるよ、とか、土地の人の地元愛をすごく聞かされるんです。でも越谷の人はそういうことあんまり言わないよね、と思うとすごく悔しくて、自分ももっと地元を誇りを持って！という気持ちが強くなっていきました。自分が一番誇りたい場所は、北越谷の桜並木ですね。それから北越谷の桜並木があるのも自慢かな。同じDJ仲間や音楽関係の人で約

りが趣味の人は結構多いんですよ。こういう仕事は人がたくさん集まるところで大きな音を出す環境にいるからこそ、人や音に疲れて、1人で静かにできる釣りがフレッシュになるんです。自分も家で仕事する合間に1時間だけ釣りに行くと息抜きしたり、今日は何もやりたくないと思つ日は何時も河川敷で過ごしたりしています。

そんな熱い越谷愛を持つIZOHさんですが、実は昨年11月、仕事が多忙なため越谷から転出。「苦渋の決断でした。でも引越す直前にフロバスケッポールチーム・越谷アルファーズの試合前のオープニングセレモニーにお招きいただいた、アルファーズファンの前でプレイできたのは本当にうれしかったです。すごく意味深い体験でした。自分はもちろんこれから越谷

出身のDJとして頑張りたいと思ってるので、市民の皆さんも地元をもっともっと誇りに思ってもらいましょうね」

★誰にも似ていない IZOHワールドを

今後IZOHさんはターンテーブルリストとして、どんな進化を遂

で負けてしまつて。その時は本当に心が折れましたね。それからしばらくバトルを忘れて、仕事としてDJを続けていたのですが、そうするうちにふと気付いたんです。自分は勝つことばかりを意識しすぎて、プレイを楽しむことを忘れていたんだと。楽しんでやればいいんだと気持ちを切り替えて再挑戦して、世界チャンピオンになったときはすごくうれしかったですね。これはチャンピオンにな

★越谷にもっと誇りを持ってほしい

生まれてから38年間、ずっと越

げていくのか何うと、楽器ではないターンテーブルという装置を、楽器のように演奏するのがターンテーブルリストの最大の魅力です。自分は世界チャンピオンになった人間として恥ずかしくないようにいつも最先端の技術を持って、いろいろな曲をよりカッコイイ音に再構築すること、そして誰

にも似ていない自分独自のサウンドとパフォーマンスを作り上げて、皆さんに届けたいと思っています。ターンテーブルリストのパフォーマンスは音楽や曲のことをよく知らなくても、見てもえれば誰でも楽しめる世界。だから地元越谷の皆さんにもぜひ見てほしいです。」

世界一を取ったターンテーブルリストとして、常に最先端の音と技術を追い求めていきたい。